

巻 頭 言

東京大学大学院准教授
CAUA 運営委員長

一井 信吾

CAUA 運営委員長を拝命してからようやく1年が経とうとしています。この1年間の活動を振り返ってみて、会員及びイベントにご参加頂いた皆様のご関心の高さ、熱意に改めて感銘を深めているところです。

さて、昨年12月、ちょうどCAUA シンポジウム 2010 in 大阪が開催された日のこと、新聞各社の朝刊が、OECD が実施する学習到達度調査 PISA の結果を報じました。私は早速インターネットで各紙の報道を見くらべてみましたが、相変わらず、日本が何位になったとか、少し上がってよかったとか、そのようなことばかりが大きくとりあげられていてがっかりしました。実際には、都市として参加した上海が全項目首位を独占し、そもそも順位をそのまま比較するなど全く無意味でした。そもそもどのような力が試され、その結果は何を意味するのか？ 何が強くどこが弱いのか？ ごく簡単な解説のある新聞もありましたが、まったくもって情報を読み解く力すなわち「情報リテラシー」の低さを露呈したのが各社の報道でした。このことは、のちに朝日新聞に掲載された池上彰さんの紙面批評でも指摘されていて、私だけの感想ではないと意を強くしたものです。

このようなことをみるにつけても、昨今の日本の低迷の根本の原因は、大人が新しい現実についていけないこと、すなわち、必要なことを学び、それを力に自ら新しい世界を切り開いていけないことにあるのではないかという感を強く持っています。子どもは頑張っているのに、大人が愚かなのではないのでしょうか。テレビで、小学生レベルの知識クイズや、社会人なら当然知っていて当然の社会知識の解説番組が人気を博する世の中です。

CAUA は、新鮮な情報を共有し、直面する問題を解決する手段を模索するために役立つ場としてこれまでご支持を頂いてきました。そこにあるのは、日々さまざまな課題に直面している大人の学びに他なりません。CAUA の活動を通じて、活気ある日本を再び創り出すためにささやかでも貢献できればと思っております。

今後ともご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。